

科目名	国際看護学演習 Global Nursing Seminar			担当教員 (研究室番号)		清水 真由美 (407)		教員への連絡方法 (メールアドレス)					
履修年次	4年次後期	科目区分	総合科目			選択区分	選択	単位数(時間)	1(15)	授業形態	講義	科目等履修生	否
												オープンクラス	否
科目目的	国際保健・看護協力および国内における多文化共生に貢献できる能力を養う。												
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現)											
	関連するDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現) G 看護学に対する研究的視点をもち、主体的に学ぶ姿勢を有している。(関心・意欲)											
到達目標	1. 異文化への理解を深め、多文化共生・持続可能な社会の在り方を考察できる。 2. 国際保健・看護活動の実際、諸外国の保健医療・看護制度への理解を深めることができる。 3. 国際保健・看護活動で用いられる展開手法を理解し、その一部を活用できる。												
成績評価方法(基準)		アイスブレイクの実施(10%)、授業参加態度(40%)、発表(50%)											
再試験の有無と基準等		当初評価で合格点数に満たない場合には、追加レポートなどにより再試験を行う。ただし、当初評価の点数は加味しない。											
教科書		使用しない											
参考書等		適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待		グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどのアクティブラーニング形式で授業を行います。積極的にグループワークなどに参加してください。											
備考		国際協力の場面だけでなく、国内の健康教育、地域活動、会合などで活用できるアイスブレイク、ファシリテーションの基本も学びます。											
回	学習項目					学習内容					主担当教員	授業方法	
1回	コースオリエンテーション					授業の目的や進め方を知る。					清水	講義/演習	
2回	異文化理解と多文化共生 1					グループワーク等を通して、自分の中の文化的視点に気づき、異文化理解と多文化共生について考える。					清水	講義/演習	
3回	異文化理解と多文化共生 2					身近に存在する難民について知り、共に生きていくためにできることを考える。					清水	講義/演習	
4回	国際開発援助で用いられる手法					ファシリテーションの基本、開発援助で使われているアプローチについて学ぶ。					清水	講義/演習	
5回	ジレンマとその対応 1					ゲーミング手法を学ぶ手段として、災害対応カードゲーム「クロスロード」を行い、ジレンマ場面で必要となるさまざまな対応について考える。					清水	講義/演習	
6回	ジレンマとその対応 2					災害時に生じる問題の解決策を考える。さらに、国際開発援助等におけるゲーミング手法の活用について考える。					清水	講義/演習	
7回	異文化理解と多文化共生 3					医療通訳士の実際の業務および外国人患者の課題について学び、外国人患者に対する支援の在り方について考える。					学外協力者/清水	講義/演習	
8回	世界の保健医療看護・文化					関心のあるテーマもしくは外国の保健医療、福祉、看護教育制度について発表する。					清水	講義/演習	

学 習 課 題	
課題①：グループもしくは個人で、授業開始時にアイスブレイクを実施する(配点10点)	
課題②：グループもしくは個人で、国際協力や異文化などにおいて関心のあるテーマ、もしくは外国の保健医療・福祉・看護教育制度などについて調べ、パワーポイントにまとめて発表する。発表終了後、パワーポイントを提出する(配点50点)	

実務経験を活かした教育の取組	
・担当教員は、看護職として国際協力の実務経験がある。国際保健・看護の教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。	